



平成21年11月5日発行・発売(毎月5日発行・発売)
第1号第2号 第2号2009年5月4日発行・発売

3・4・5歳児の保育

新指針・要領対応
3・4・5歳児
12~1月号の
指導計画

特集
「気になる子」の
記録と
伝達アドバイス
—東北大学・本郷一夫先生に聞く—

新教育要領・
新保育指針ルポ

(新潟県・金城幼稚園
東京都・なでしこ幼稚園)

12/1

2009-2010
880yen
shogakukan

小児科医から緊急提言8
保育現場での

「新型インフルエンザ」対応

クローズアップ
100歳を迎える現役詩人
眞田「そうさんの
まど・みちおさん

「ミニックで読む保育思想
子どもへの信頼から始まる
ニュージーランドの保育カリキュラム
「テ・ファリキ」



平成21年度「学校評価」 事業結果ならびに計画

- 春から
実行委員会・運営委員会・園内検討会を開催し、前年度の評価項目を改定
- 7月下旬～8月上旬
第1回自己評価実施
- 8月
園内委員会や先進園との打ち合わせより自己評価修正
- 9月
先進園で学校評価・自己評価を実施
- 10月
先進園より意見聴取、実行委員会・運営委員会を開き再検討
- 11月
第1回学校評価委員会
(概略説明+学校評価委員会に役割について)
- 12月上旬
第2回自己評価実施
- 12月下旬
自己評価の分析とまとめ
- 1月中旬
第2回学校評価委員会
- 1月下旬
まとめと発表会準備
- 2月6日
発表会



研究の実行委員会には、小学校の先生や大学の先生などにも入っていただき、アドバイスしてもらっている。

今年度からの義務化に向け、金城幼稚園・金城保育園では、昨年度も文部科学省の依頼を受け、学校評価の調査研究を行いました（報告書が園のホームページにアップされています）。さらに、今年度も認定こども園の学校評価について検討すべく、引き続き調査研究を行っています。今年度の計画は

評価項目を精査することで 自園の特徴が見えてくる

左記の通りですが、園長の角谷正雄先生にその内容について伺いました。

「はじめは自己点検・自己評価の項目をきちんと作る作業が中心でした。

去年は幼稚園の学校評価が中心でしたがが、今年は認定こども園として、0・1・2歳児の未満児保育のところも含めた項目立てをしてています。日頃、幼保の文化の違いに戸惑うことも多いのですが、評価項目を作ることで、幼保の職員が、互いの保育観などを理解し、共

通認識が持てるようになりました」

項目作りは幼保それぞれの園長や主任などで協議をしています。ベースは全国私立幼稚園連合会と全国保育士会が作った自己評価チェックリストですが、そのままではリストの量が膨大すぎるなどの難点があり、ダブルの項目などを削除する作業からはじまりました。中でも認定こども園として、幼稚園と保育所の視点の違いをすり合わせていく作業に苦労したそうです。

自主的な改善・成長につながる自己評価から「学校評価」へ

認定こども園 金城幼稚園・金城保育園（新潟県南魚沼市）

小中学校ではかなり一般的になつてきている「学校評価」。今回の新要領では、幼稚園でも「学校評価」を行いうように義務づけられました。

保育者の自己評価から、園の「学校評価」までをどう実施するか？

今年度、文部科学省による学校評価の推進に関する調査研究園に指定されている認定こども園

金城幼稚園・金城保育園を取材しました。

